

巻き爪治療について

巻き爪とは？



巻き爪とは写真に示すような爪の状態で、深爪や先が細い履物、外傷や年齢など様々な要因で起こります。始めは見た目の問題だけですが、進行すると、爪が皮膚に食い込

み、激しい痛みを伴ったり、化膿し、場合によっては、歩くことも困難な状態になることがあります。

「巻き爪」に対して、当院形成外科では平成22年12月より、従来の手術治療に加えて、爪矯正器具による治療を開始しました。

巻き爪(陥入爪)の治療

巻き爪の治療には、保存的な方法からワイヤー療法、手術など様々な方法がありますが、各施設において得意の方法を中心に治療が行われているのが現状です。一口にワイヤー療法といってもいろいろな方法があり、それぞれ特徴があります。また、手術での治療にもメスを使う方法や、薬品を使う方法など施設によって様々です。当院では、形成外科医とフスプレーガーの資格を持った看護師による巻き爪治療を行っています。保存療法や複数のワイヤー療法と手術から最適な治療を選択し、患者さんに一番良い方法の陥入爪治療を提供します。

1. 保存的療法 (健康保険適応)

軟膏療法やテーピング療法、簡単な爪棘切除などにより、爪変形の少ない軽度な陥入爪は治療可能です。まずは、保存療法を検討し治療が難しい場合に、ワイヤー療法や手術療法が適応となります。

2. ワイヤー療法

ワイヤーを利用して爪の変形を矯正する方法です。爪の変形の程度、伸び具合、厚さ、などにより、ワイヤーを選択します。通常2～3ヶ月に1回の入れ替えが必要です。爪の状態により複数のワイヤーを併用することも効果的です。ワイヤー治療によって改善が得られないときは手術を行うこともあります。

	マチワイヤー (形状記憶ワイヤー)	VHOワイヤー	オーラシュパンゲ	3 T Oポドフィックス
方法	爪の先端にワイヤーを挿入し矯正する方法	爪の根元にワイヤーをかけて矯正する方法	爪の根元にワイヤーをかけて矯正する方法	爪の表面にワイヤーを接着し矯正する方法
矯正力	中～大	中～大	小～中	小
手技	簡便	やや煩雑	やや煩雑	簡便
適応	爪が伸びている必要がある	爪の根元から曲がっている場合	薄い爪に良い適応	比較的簡単にできる方法
				

※その他の取り扱いワイヤー：コレクティオ、コンピベド



巻き爪治療について

3.手術による方法(健康保険適用)

爪の巻いている部分を一部切除し、爪母を切除(処理)し、その部分の爪が生えてこないようにします。爪の幅が狭くなります。フェノール法は薬剤で爪母細胞を処理し、一般的な手術法はメ

スで爪母を取り除きます。骨の変形が原因の場合は、骨を部分的に平らにする手術を行うこともあります。

※爪母:爪を作っている部分、爪の根元にあります。

	フェノール法	爪母切除術 (鬼塚法・小島法など)	骨削り術
方法	爪母をフェノールで処理する方法	爪母をメスで切除する方法	骨を平らに削る方法
術後疼痛	小	中	大
再発	少	極少	中
術後安静	不要	必要	必要
			

受診方法

手術治療や保存治療の場合は保険診療ですが、爪矯正器具による治療を行う場合は、自費診療となります。受診希望の方は外来へお問い合わせください。



VHO治療ライセンス